在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/11 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆センターまであと２ヶ月！

　定期考査が終わりました。ふっと窓を見上げると、雪。釧路にもとうとう本格的な冬がやってきました。日も短くなり、７時間授業が終わるともう外は暗くなっている。定期考査中にもかかわらず職員室は19時、20時になっても煌々と明かりがついています。最近、教師はブラックだ！とかブラック部活だとか騒がれていますが、やりがいがあるからこそ、生徒と共に歩んでいこうとするからこそ、日々励んでいるということ、生徒の皆さんも理解してほしいですね。生徒と先生、お互いが一番の理解者になることが私の願いです。
　さて、急速に気温が下がってきてますので、注意しなければならないのが「風邪」です。インフルエンザは注射で予防が可能ですので、心の隙間や心の油断で風邪につながってしまうと思います。とある瞬間､「ゾクゾクと悪寒がする」時がありませんか？あるいは「さむっ！」となったのに上着を１枚着ればいいのに面倒くさがって着ないことありませんか？風邪の始まりはこうした些細なことから始まりますよ。逆にいつまでたっても風邪が治らない生徒子もいます。早く寝ればいいのに、いつもと同じ時間帯まで勉強していたら治るのも治りません。鼻水グズグズいわせながら勉強し続けるのと、早く寝て１・２日で直してシャキっと勉強するの、どちらが「効率的」でしょうか！
　さて、定期考査が終わり、晴れやかな気分に浸っていることと思いますが、湖陵生はここからが本番であることを忘れずに!

１年生
　文理選択に向けていよいよ三者懇談がスタートするでしょう。私の担任時代、こんなことがありました。「お母さん、本人と文理について話し合いましたか？」「いいえ」。「本人は親に言ったの？」「言ってません」これでは懇談になりません。一週間後に日を改めて設け、それまでにしっかりと話し合うようにお願いしました。
　文理選択で一番大切なことは生徒本人が最終決断することです。「親に言われたから」「担任に言われたから」という他人任せに決してしないように。２・３年生になってから志望を変えることがあるかもしれません。しかし、自分でその時に決めたからこそ、納得して先に進むことができるのではないでしょうか。ある時、一生懸命考えて決断した。だから後悔はしない、となることを願います。

２年生
　見学旅行が終わり、11 月ベネッセ模試で思うように点数が取れなかった生徒が多数いたことでしょう。逆にまあまあ取れたかな、と思っている生徒は甘すぎます。ここからが受験勉強です。「切り替える」とよく言われますが、要するに勉強時間を大幅に増やせ!ということ。見学旅行前と変わらない場合は切り替えていない、ということを自覚するように。
　１年と２ヶ月後のセンター試験までの計画を練るのはちょっと遠すぎるでしょう。ここは目先で勝負です。冬休み明けの課題テストにおいて、覚えたことが点数に反映されているかチェックすること。成績にも関係してきますし、一石二鳥ですよね。１月記述模試を経て２月センター早期対策模試があります。このセンター早期こそ、２年生で最も大切な模擬試験となります。初めてのマーク、そして１月記述模試と合わせたドッキング判定が出ます。何よりも１年後、ここから何点伸ばせるのかといったデータも取れるんです。今月 30 日にベネッセの方を招き、進路指導部と２学年団を中心にセンター早期模試についてあらゆる角度から分析します。それに基づいて担任からこの模試はどれだけの価値があるのか、点数を取るためにはどうすればいいのか等々、具体的に熱意を込めてレクチャーしてくれるはずです。センター早期模試＝センター試験と考えて挑むこと！

３年生
　高校３年間全ての定期考査が終了しました。残すのは進路実現だけです。現役生の、湖陵生の底力を発揮するのはこれからです。これまでの学力を維持しようとしか考えていないそこのあなた！チャレンジすること。夢を掴もうとすること。夢を決して諦めないでください。最後の最後まで先生方も皆さんと一緒に闘います。
　今月 12 日に進路指導部と３学年が中心となって３年生の出願検討会を行いました。一人一人じっくりと時間をかけてはできませんでしたが、誰が推薦やＡＯ入試に出願しているかも含めてしっかりと検討しています。また、４月の模試から結果が戻り次第湖陵の受験者全員の結果が記載されている冊子を全先生に配布しています。つまり、どの先生にアドバイスを求めても対応できる体勢は整えています。担任以外に自分として信頼できる先生方にもどんどん助言を求めていってください。

　今後の模試のワンポイントレッスン
・全統プレ
　釧路公立大学にて受験します。センター試験はここ２・３年ほど教育大学が中心で公立大は２０名ほどの受験となっていますが、本番を想定して臨んでほしいと思います。また、リスニングはＩＣプレイヤーでの実施となります。普段は一斉放送にて実施していますが本番前の練習となります。また、大抵は一斉放送の時よりも点数は上がる生徒が多いようです。
・駿台プレ
　駿台単独のマークは今回が最初で最後です。駿台の方に聞くと、受験生として苦手なところ、点数が取りづらい分野もしっかりと出題されているとのことです。ですから、点数がふるわない場合は落ち込む必要はありません。むしろそれをプラスにとらえること。また、12 月に入ってから実施するので、解答は自宅に届けられます。そのため、受験カードには住所と電話番号を必ず記入してください。
・センター直前模試
　毎年 1000 円で実施しています。答案を業者に送付はせずに自己採点のみ生徒が行うことになります。特徴はセンター試験当日と同じ順番で行うこと。そのための２日間受験です。休憩時間は本番と異なり時間が短縮されていますが、本番を想定して臨むように。

センターを時間内で解ききれる？
　この 1 年間たくさんの模試を受けているのに未だに時間内で解ききれない生徒や焦って点数が思うように取れない生徒が多数いると思います。これまで多くの生徒や浪人生、予備校の方と話してきましたが、私なりに、という視点でまとめます。
　どうしても時間内に終えられない生徒がいました。しかも本人が得意だと言っていた数学ＩＡでもです。また自分で制限時間を設けているとも言っていました。そこでその場で数ＩＡの大問を１題解かせてみました。始めは焦るので書き殴りの計算式。答えが解答欄にはまらない。普通だったらそこで今自分が書いた計算式を見直すでしょう。ところが自分でも読めない字。始めから計算式を書き始める。今度は先ほどよりも丁寧に、かつ単純な式も省略しないで書き、欄に埋まる答えを導き出しました。おわかりいただけたでしょうか？この子はほぼ全ての問題を２回ずつ解いていることになっているんです。これではいくら時間があっても足りません。自分で分かる程度、見直しできる程度の文字で簡単な式もしっかりと記載して１回でクリアーする、これがベストな解き方でしょう。
　さて、大問ごとに自分なりの制限時間を設ける。これはおおかたの受験生がやっていることでしょう。ところでその時間は守られていますか？後、１・２分とか言って延ばしていませんか？自分が考えた制限時間を１秒でも超えたら次の大問に移ってください。昨年のセンター試験の国語の全国平均が低かった理由はこれです。現代文の問題で本文が１ページ分例年より多かったことが最大の原因です。つまり、いつもより本文が長くなってそれを読むのに時間がかかり、結果平均点が下がったのです。現代文の分野だけでなく、古文も漢文も平

均点が下がりました。制限時間を厳格に守ったとしたらどうでしょうか。現代文は下がりますが、古文漢文は下がらないはずです。
　逆に大問を予想外に早く解けたらどうしますか。２分余ったら次へ進むべき？それとも大問を見直すべき？次に進みましょう。見直ししたとしても時間が余ってホッとしている時間帯ですから気持ちがそぞろです。ボーッと何となくしているよりは余ったら次に進む。ラストで余ったら見直しする。小手先な手段かもしれませんが自分の解答時間も含めてもう一度改めて工夫して下さい。

　センター試験まで残り２ヶ月！！！
　全てはセンターで決まります。出願先も含めて全てはセンターの自己採点次第。実は湖陵生は２次試験はけっこう取れています。今年度も記述の結果を見ても健闘していると言えます。これはこの１年間、あるいは３年間しっかり記述の勉強をしてきた証とも言えます。その半面、マークが思うように伸びてきていない生徒が多数います。自分で納得いく点数を取れるまでひたすら頑張ること。という心構えになったら 10 分休みや昼休みの教室の華やかさは全て受験一色になりませんか！！！ユッタリすぎるくらい昼食にかける時間、シャベリまくっている時間、この１年間の模試を越える点数を取るためには邪魔です。湖陵生の受験オーラ、期待しています。

◆私立大学は定員管理の厳格化へ

　右の表を見て下さい。2016 年から 2017 年、そして 2018 年へと合格者がどの私大においても大幅に減らしていることが分かるはずです。今年もさらに厳格になることはないようですが、2018 年の数字とほぼ同じなのではないかという予備校各社の予想です。つまり、これまで合格できたはずなのに、合格できなかった、という受験生が 2018 年と同様だということ。早稲田・慶応・上智に入れなくなって中央・明治・青学・法政・立教へ、さらに学習院・明学・成城・成蹊・獨協・國學院・武蔵へ、そして日大・駒沢・専修・東洋へと受験の幅が広がつつあります。
　駿台予備学校によると、今年の私立大一般入試の延べ志願者数は 365 万人前後とみられている。12 年連続の増加となるが、その伸びは前年を 100 とした場合の指数が 107 に達した。国公立大は 46 万 5708 人と同 99 で“私大バブル“ともいうべき状況になっています。
　私立大の入試戦線に何が起きているのでしょうか。その要因としてあげられるのは、
・入学定員管理の厳格化に伴う合格者の絞り込み
・併願時の受験料割引の拡大
・入試方式の複線化・多様化
・文系学部人気の４つがあげられる。
　入学定員の厳格化は、大都市部の大学への学生集中を是正するとして、2016 年から行われています。収容定員 8000 人以上の大規模大学の場合、これまでは定員の 1．2 倍以上を入学させると補助金が打ち切られたが、同年春から段階的に厳しくなり、昨年は 1．14 倍以上、今春は 1．1 倍以上となり、定員の超過分に応じて減額される。
　ある私立中高一貫校の校長は今春の入試について、「私立大は本当に厳しかった。今までなら、MARCH クラスに、『受かるかもしれない』という生徒でも合格していたが、今年は、『確実』という生徒しか突破できなかった」と振り返る。
　私大を受験する生徒は本校でもたくさんいます。これまでは入れたんだけど、では通用しません。道内の大学はどうでしょうか。本日北星・北海・藤女子大学の願書配布会がありますが、いずれも入試担当に聞く限り大幅に合格者が減ることはありませんとのこと。様々な入試形態にも、ネット出願で入力ミスでなかなか送付できないなど惑わされることが多いことでしょう。ですが、あわゆることを想定した上で出願し、合格を勝ち取ってほしいと思います。

（雑誌より表を転載しておりましたが、Ｗｅｂページ掲載につき外しました）